ライオネルのメール

5 ら感じ わせやし 通男ならば、 ١J るだろう。 少女に な ίĵ 頼 られ む 女性に、 L れば、 ろ頼られることを誇りに それ・ 嫌 な感 も幼さの残る 情な どだ持 うち合 す 愛

例えば、

なくて.....」

「お願いします……私、どうして良いのか解ら

けられながら懇願され、さらにはなどと、今にも泣き出しそうな、そんな瞳を向

「他に頼る人がいないです」

とまで言われてしまえば、

「大丈夫、俺に任せとけ!」

と、後先考えずに安請け合いしてしまっても

誰が彼を攻められようか?

結果的にただの小間使い的な役割を背負い込またとえ、少女の願いが少女自身のことでなく、

少なくとも、男ならば彼に同情出来るだろう。れただけだとしても、誰が彼を笑えようか?

๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛๛

たとしか言いようがないよね」「もうアレだね。君はそういう星の下に生まれ

し可笑しそうに 呟 いた。ているアッシュに向かい、呆れたような、しか道中、アナはもはや「ネタを運ぶ人」と化し

ホプキンスのと一緒にするなよ」「うるさいなぁ...... これは人助けなんだから、

引き受けた二件の依 今回の う 点 依頼も、 に おい て、 人に頼られて受けた 以前 頼と同様 朩 プキンスに である。 依 懇 頼。 願 され

すみません.....私だけではどうしていいのか

: :

は け な ならない。 相 らば、 違 点 は、 別 段ア 依頼 者 ナにとって「面白 が少女 で あ つ た いネ 事。 タ」 こ れ だ

だ ただね、 あ け あ、 マー こ の男が空回りしてい ちゃ んは気に しなくても るのが ١J 可笑 61 の よ。

にアナの言う空回りの原因がある。厳密に言うと、依頼元は少女ではない。そこ

からとなだ を進めることでし 赤らめながらも無視 ロオロ 二人の様子に、 姫を守る 声 を上げ Ų んめる。 **騎**士ト そんな少女をクロエはいつも 笑 l1 一のつ 少女はどうしてよいもの 出 か抗 U たア を決め込み、 もりでい 議できなかっ ナに、 た、 アッ この 先へ先へと歩 た。 シュ 男 の かとオ そ は が 事だ \dot{h} ね 顔

助守援 主 ح 11 信号 けるべき相手は少女ではなく、 少 女の依頼は、 . う事 を送っ た送り主を救助する 少女の下にBEEメ メール 事。 Ī の送 つ ル ま で IJ IJ 救

ア に ッ 代 シュ わ かしそれ IJ いやぁ今思い出しても笑えるよね。「 を笑う事 は なく、 でも、 は そ ない Ь 確 な かに少女は だろう。 少女に手 を差 困って U 伸 ١J ベ る ァ た 事

身

動

きの取れ

ない

状況に

追

61

込まれたらし

ιĵ

理

由

ま

では

書か

れ

て

しし

な

かっ

た

が、

どうやら

そこで自分の下まで来て助けてくれと言うの

にさ」ってさ。大変なのはマーちゃんじゃないってのけ、マァサが大変なんだ。手伝ってくれ!」だ

ちりと言うべきだろう。空回りを別の言葉に置き換えるならば、早と

なっ うドンキホー テ。 少 /女の た 気 物でもな 懇願。 でしい ίÌ たア そして涙。 ツ た U シュ かに、 は、 そ これは笑 れだけで、 まさに 風 11 車 騎 話 に 士に 以外 向 か

う。 からの 仕 事 マ 少女マァ その ァサ を共 物 で、 メー は に 唐 サ 内 容 の た ル 突 事 は に 依 は 以前 頼 の 救 内容はこうだ。 あ あ のるアンドロションション 援 る を求める 人 ールを のだっ **イ***ル 受 信 ۴ ドを通 ・ハャンス し た。 た とい

乂 は れ て 6 ゚ヅ 61 森 救 な セー る。 援 か な 61 5 主 の ジ まる だ は だ ろう ιį 自 救 け。 で 井 援 分 する か : が 解 戸 何 る 処 に の の 底 も 周 に は に 問 1) 61 _ の 題 る 壁は が 雨 るようだ」 の が あ か ひ っ つ 正 نے ۱۱ た 確 た。 で に とい 覆 تع 伝 ここ うや わ えら れ う

って であ そし 切 れ いるら る 依 てもう一つ İţ 頼 L 主 その ば ιį まま 残 の アン IJ 問 ドロ 題。 死 の を エ 意 そ 1 ネ 味 れ ル ドにとっ す ギー は ર્વે アンド が 少 て エ な ネ < 1 ル な ド

時 だ け 11 し 駆 間 か を 八 求 け ン の ター めら 出 な U 分 61 ズと 一 人 れ のマァ 依 て 頼 は L では に サに て、 無 対 どう 視 U は、 す て フ る オ L 途 てよ 方 こ I わ け に の スとして、 L١ に 暮 難 解で、 も れ も の L١ て か か 61 な た。 まだ 解 か ιį 5 な も ま 助

寄 を 見 か け 必 そ 至に、 た。 h な 藁ゥ時 に 淚 を を浮か も す マ が ア ベ る思 サ ながら「 は しし た で ま 彼 た 助 の ま け 下 ア てく に ツ シ 駆 け ュ

> を笑いのネタに仕立て上げて.こうして、マァサは悪気無状況を説明するゆとりなどあり を う 仰の 61 ようも だ。 時 間 な も が ち l١ 3 Ĺ な など しし hί h と言 幼 で す L١ マア 葉 を並 しまった る < 自 ば サ 哀 ず 分だけ に れ び も 立 落 な のだ。 アッシュ な ち て、 L١ 着 で は 協 L١ 力 て

 ω

ı ま ま 自 た、 れ ル 信 たぶ メー セントラル メー を持っ に ており、その壁には あっ hί 今この一体 ル ルで指 つ の てその ここ た 通 内 ドー 容 摘 ij か の L は 事 た ムにほど近 場 5 井戸のように四 場 だ 場 小 へと皆 所 雨 ح 所 蔦が 思う・ Ļ が を . 降 を 特 からみつい 引 まさ IJ h しし 定 続 だ き連 場 L け 所。 た L 61 ク < 7 تع 方を壁 れ 条 しし て そこはメ て エは、 件 来 る。 いる。 は で囲 た。

L١ 致 な だ かっ が、 て しし たが.... そこに ヒ ュ^依 I キ_頼ヤ ス_± ト は しし な かっ た。

おーい。 聞こえるかー?ここだよ、ここ」

声はどこからかする。

?..... どこだ?」

声はすれど、姿は見えず。

コツン

痛つ!」

マァサが何かを蹴飛ばした。 その時、 また声

がした。

?

気付いたマァサが蹴飛ばした者を確認した。

それは.

「キャアアアアアア!」

「どうしたマァサ!」

姫を守る騎士の出番。ここぞとば かりに、 ア

ツ シュはマァサの下にすぐさま駆けつけた。

あっ、 あれ...

マァサが指さした先。そこには、 一つの生育

が転がってい た。

「どうわぁっ!」

さしもの騎士も、 驚きのけぞる。

いや、ごの

程度で驚いて、姫が守れようか?

「何驚い てるの。 よく見なよ、アンドロイドの

首だよ」

ひょいと転がっていた首を持ち上げながら、

アナが二人に良く見せた。

確かに、それはアンドロイドの頭部パーツ。

生首などではなかった。

君!もしかして私を助けに来てくれたのか?」

ら、先ほどからの声は、このパーツが主だった そのパーツが、突然しゃべり出した。どうや

それは解る。 解るが、 やはり突然話し出せば

いや、すまん。 驚かせ るつもりでは.....」

二人がまた驚き、地べたに腰を落としてしま

っても仕方 のない 事 かも しれ な l,

なっさけない わねぇ」

少なくとも、 マア サは 仕方 な いだろう。

やはり、アッシュはどうにも、格好が悪い コホン。で、あんたはその...... 元々そう

いう人なのか?」

共 に 土埃を払い アナ が持つ首だけのアンドロイ ながら、 わざとらし しし ド に 咳 質 払 問 しし لح を

した。

よ。 ١J ゃ ちゃんとハンター れ っきとし た 登 ア ンドロ 録 も あ る 1 ド ハン つ ター だ あ

一、身体!そう、身体だよ!」

したようだ。としたところで、自分の置かれた状況を再認識としたところで、自分の置かれた状況を再認識とうから、ハンターライセンスを提示しよう

マァサです。 えーっと... メー ラ ル イオネ をく ださっ ル さん.... た の です は あ ょ な ね た で ?

間違いないですよね?」

送り主 儀 と行ってい と言うべ こ の 状況 な の **〈** き は では か 火 を 見 間 マ ア るよ 違 サ L١ は状 り 明 な < 況 5 彼 か の が 確 な 救 認 の 援 をき だ 乂 I が ち ル 律 の

誰 あ にメー な あ た あ に ル 私 が がラ 11 渡ったのかすら..... せ、 1 オ 実は ネ ル だ。 こういう状況 そうか、 おっと、 な 乂 ı で、 レデ ル は

- | を前にこんな姿で失礼」

え る な が、 h とも、二人 この 情景 の見ては、 のやりとり は紳 そうは 士で律儀 とても 思え と言

ない。

生真面目なのが、さらに場を間抜けにしていきまじゅと表現すべきだろうか?しかも会話がなんと する。 ディパー 探索 女 性 この 中 が ツがかなり 両 情景を間抜け 得体の知 手に首を 損 れ 持ち、 傷 ない化 してしまって と言わぬ 少 女が け 物 に襲 そ ならば、 の ね わ 首 ح 'n とも なん 会 ボ 話

はいきさつを語り出した。 間抜けながらも、首だけの依頼主ライオネル

「命からがら逃げ出したのは良かったが……そ

れ

からがひどかっ

た

メッ 1 オ アンドロ ネル。 セー を 聞 い さなが イド故 てい ら首 表情を変えず とい るか のようにすら感 うラジ に語 力 セ を IJ 通 出 すラ じ て 7

しまう。

こでお願いだ!バラバラになった私のパーツ「足がもげ、腕を落とし、胴体も奪われた。そ

を、 な んとか全部探 し出してくれ な 1 か? 礼は

必ずする。 頼 む ょ

61 ということを告げていた。 ま りは 救 助 も 依 頼 ŧ まだ終わ IJ では な

か ま み いも 右 腕 れ ているようでもある.....」 の セン に 包ま サーのデータが入った。 れて ねっとりし た液 なに か柔ら 体 に

処に な ١, 依頼 あ る を続行するに の か。 そ れが解らなけれ も、失っ た他のパー ば 探 しようが ツが 何

事 る となった。 そこでライオネ のか、センサー を ル 探 に 知 は 自分の してもらい 身体 が な がら探 何 処 に す あ

つは、 かし、 この 頭部 事。 方法 だけ の は問題点がいくつか 為 センサー 探知 が上手 あ ಠ್ಠ

してもう一つは、 頭部に残された予備 エネ

く作

動

しな

しし

ル ギー が残 づ少 な L١ 事。

さらに もう一つ、 頭部 だけではエネルギー の

補 給が出 来な L١ 事。

この 問問 題点を解決しながらの探索は、 か な IJ

困難

O K ° じゃしばらく寝 ててく れ

I ネルギー を維持する為には、わずかだがエネルギー を消 プモードに入ってもらう事とした。 しかしスリープモードに入っても、 解決策 を消費しきらないようにとの配 ع て、 簡単 な 探 知 を行った メモリー 少 後 虚だ。 な は いエ ス

ſΪ 費し 続ける。 どちらにしても、 あまり時 間 は

I ム : : の お 腹 この の中にでも入ってい 感 覚は、 ま さか る の では 何 か ?って... Ŧ ン スタ

まさか お ١J おい……そういう事を言って寝るなよな な。 では . 、 よろ-しく 、頼む ょ

吉な事を言い残して、ライオネルは眠りについ 不吉な事を、少なくともアッシュにどって不

み 「.....アッ た シュ、 おめでとう。 どうやらビンゴ

熊の名を持つ大猿が一匹、待ちかまえょり。テベステンシーライオネルがあたりを付けた場 る 「マジかよ.....えぇい、 `! _ とりあえず殺ってや待ちかまえていた。 所 に は、

半ばやけくそ気味に、 アッシュは一人大猿に

突っ込む。

にかならないかな 「ちょっ もう。 アッシュ君のこの癖、どう

ち向かう若きハンターを嘆いた。投 剣でアッシュを援護しながら、 勇無 敢謀 に 立

_ せいやっ!」

ば、 力は 身に付けている。 アッシュー人でも十分に渡り合え かしながら、強敵とはい 、 え 大 猿 ・ に ルデベア えるほ 相 手なら どの

ブ ル セ の イバ しし 両 端 ものの、 ۱ . からフォ まだ 様になりつつあ トン まだ使いこな の 刃 が の ર્વુ して び た 武 ١J るとは 器 ヷ

側 ま そ の 振 へと回り込む。大振 り上げられた右腕を見、アッ 腕 が振 り下ろされるよ りした右腕 IJ も 早く相 シュ は、 虚し はすぐさ 手 くブ の左

大 猿はかなりの力を持ち合わいという音を立てただけで終わっ た。

せてい

る。 そ

動パターンも単純な方だ。 しかしながら、動作が少しばかり鈍 のため、たった一撃が命取 いにな じりか < ね また行 な ιį

アッ 慣れてしまえば、対処は難 シュは慣れるだけの鍛錬は しくない。 積 んでいるの そう、

だ。 ツ

両 剣一振りで転がシュッ、ザシュッ りで斬り つけ、 相 手 が 苦 痛 に 仰

け反っ 避けるようにする。 ている隙に後ろへ回り込 単純だが、 み、 確 実 に 腕 . 仕留 の 直 撃を める

方法。

ズンッ

倒 れ込んだ。 程なくして、 大猿は膝を突き、 前 の め りに

ふう さて、 問題はこれからだが

振り返り、本来 の 用件をどう解決しようかを

相談 しようとし た。 が :

マーちゃんも離れてようねー。 ばっ ちい

の見ちゃ うから

じゃ あアッシュくー ψ 後お願 11 ねー つ

あー お前らズル イぞ!

吠えは えは虚しい木霊にしか聞こえなかった。既に遠ざかった三人にとって、アッシュ の 遠

ドラゴンの時ほど酷かねーから良いけどさぁ ぶつくさと文句を言うアッシュと、三人はぼ

んのおようと距離をとりながらも、 られた。 探索は続 け

結果、 右腕 右足 ,左足は何とか見つけ出す

事が出来た。

まらし 残りは胴体と左腕。 為、 実質後一つということになる。 この二つはくっつい た ま

> ところが、この 後一つが難解だった。

コノ..... 反応 温 度 ... 八 ... 人肌 ?

というメッセー ジを最 後に、 ライオネ ル の エ

と入ってしまい、 は危 ネルギー残量が限界に達した。 険と判断され 無理に起こせなくなってしま 強制的に スリ これ ĺ プモー 以上の ドへ 消費

っ た。

「人肌ということは、

少なくとも腹

の中っ

て

事

は ないか

意地の悪そうな笑みを浮 かべながら、 アナは

アッシュに同意を求め た。

シュは、そして他の三人も、それ以上の推理に そうじゃ なきゃ 困ると同意 したものの、 アッ

頭を悩ませた。

「人肌ということは、 誰 かが持ち歩いてい ると

いう事ですしょうか?」

クロエの推理にうなずく三人。

でも.....アンド ロイド の パ I ツ な h 持ち

歩いても何 意味 もな いですよ?

かしマァサが言うように、アンドロイドの

パ らま な L١ ı だ 物。 ツは L 本 ŧ 彼 5 人 で 他 の ょ 無 の 者 う ١J に 限 に <u>ָׁי</u> は 依 何 頼 持っ ع の しし 意 味 う理 τ も しし 持 由 て も が た 仕 な あ る 方 L١ は な の

け 大昔 どな あ な 5 パ Ι ツ だ け で も 取 引 さ れ た 5 し しし

なパー 成な人 身壳 さ ア れた為 ン ドロ 買 ツ売買 ゃ اڌ 内 蔵 1 を ド 強 売 の 買 < 自 と同 規 立 制 を され 認 樣 の め も るように 5 のとい れ て 以 なっ う認 降、 た。 識 不 当 が

な や交換をする そ の 為、 アン 際 ド で な П L١ 1 限 ド のパ Ď Ī 联 ツは本 規 に は 売 人 買 が され 修 理

そう、 ぁ、 正 規 も L に は か 売買 τ :: されずとも、 裏 ? 裏 でならあ

1)

得

_ම

知 れ 裹 : て か な な くても 当 で しし す 然 か 恥 ま の ? では U 事 て だ ない マァ が、 サ 裏 の は ような あ ま IJ 少半表 女‡ で では は 知 5

> h ı マー ちゃ h は 気 に L なく 7 しし しし ょ

?

パ 1 理 の だ が 裏 気に 2無難 か : にでも流 は だろう。 な だとし る れて が、 みろ。 ここ たら 素 直 厄 な は 取 介 少 先 だだぞ。 輩 IJ 女はそう判 戻す の言うこ ブラ のは ツ とに 絶 断 対 ク L ペ | た。 従う に 無

ſΪ ま し 流 て、 れ を 止 今どこに め る 手 だ あ る て 以 の か 前 さえ見当が の 問 題だ。 付 か な

あては あり ま す

実 クロエがここで突然、 は ライオ ネ ル さ 光明 h の 頭 を を 見 見 11 だ つ け L る少し た

前、不審 不審な 人 物 な人物 ? か け

を

見

た

んで

す

ょ。 やらこそこそと、 立 見 こくりとうなずき、 ち か そ 去っ け の か 時 は は レ た て : 気 の ンジ で に 私 ヤ も I L 達 に見 ク て 余 の しし 計 ょ エ つ う な に かっ 目立 か は で 話 5 た つ な た を 続 て が h 61 で た よう け す h た けど に で な す に

その レンジャーが怪しい。言葉 にはせずとも、

クロエの話に皆がそう思った。

か 問 題 は まだ残ってい

そのレンジャ ーをどうやって捕まえる?」

至極当然で、 重要な問題だっ た。

「人物さえ特定できれば、後は簡単ですよ。ね、

ある。

蛇。 蛇。 の道は蛇。 で それもまた、 至極当然の 理わり で

 ϕ

その為には需要者と供給者に共通で知られてい 必要だ。そして市場は人の出入りが必要であ るという条件がいる。 表であれ、 裏であれ、売買をするには . 市場が ij

場に ば イドのパー 会える確率は もし、クロエ . 顔 を出すだろう。 ツをさばこうとするならば 一が睨 かなり高いと言える。 んだレンジャー がアン ならば、 裏 の市 場 に 裏 行け ドロ の 市

> 片手間 じじゃない な たまじゃ あの態度 に かな? からして、 ないと思う。 裏で小 遣い を稼 直 たぶ 接裏 ĺ١ でる.... んハンター に通じてい そ h 稼 るよう な感 業 の

曖昧な返事しかできない。それ以前に、自分は妹の言うレンジャーを見ていな 推理 する為に語っているだけなのだが。 クロエもそれを解っていて、 まぁ クロエがそういうなら、 そうじゃない クロエは 「などといった考える作業は好きでは 姉に、自分の推理 ーを披 を を を 自分の推理を整理 露 して な ίÌ アナは 61 ιį ? た。

١J 「それはそうと、マーちゃ 残 いとして..... どうしてアッシュまで?」 りのパー ツ奪還に裏市場に んを置 乗り込 しし てきた h だの のは

は、ウェインズ姉妹二人だけであった。

証は を置 くる 純粋なマァ サをこのような黒 ある?」 のにためらい の いてきた 熱血少年が、 真 意 が があ ア ここで暴れ出さないっ ナに る の は は 解 わ か る L١ が、 場 らな 所 かっ アッ 連 て 保 シュ た。 れて

あ あ、 とアナは 手を叩 いて納得 U

る。 けで成り立つ市場 ア ゚ヅ 不 正 シュ を 見過ごせ もマァサ で黙ってい とは な L١ 熱 違う純粋さを持 血 られるとは 漢 が、 この 思え 不 っ · 正 だ て な しし

える。 人になりきれて 黙っ たし てい られ かに、 しし な な ١J ア L١ ツ の シュ は、 はそういう意 単純に子供だとも言 味 で大

ſΪ

それはそ れで、 あの子らし ŀ١ じゃ な ۲۱

精神年齢がどうであれ、それもまた個性の一つ。 寿命の不安定な彼女達にはどうでも良いこと。 無理 大人だとか子供だとか、ニューマンであり、 に汚れることなんか無い わよ。汚れって

そうそう落とせる物じゃ ない から」

ょ

で返す。 しそうに笑う妹を、 姉は同じく寂し しり 笑 顔

存 在 のり ずっと二人だけ に てい は、 た。 汚れ ず には で、生き延 ١J られ ない びてきた。 泥沼 も 点 そ 々と の 道

れ はアッ シュ にもマァサにもあるだろう。

> ただ、 彼らと姉 妹では、 道幅 が 違 う。

避け て 通 れ るな 5 わ ざわざ泥沼にはま る必

要は な しし

..... ん?あ 感 傷 に 浸 る 時 ١J では つ ::: な か ιį な?」 クロ I は 見 覚 え

の

あ

る顔 を見つけ、 アナに声をかけ た

どうだいどうだい。 しし しし も んあるよ . !

間 違いなく、ここで商売をしようとしてい 道行く人に、しきりと声をかけるレンジャ る . | | の

は明らかだが、 あまり慣れているようには 見え

な

1,

に私 がお痛した時、 あー、 あい う。 あ 見覚えあるわ。 の時に見かけたことある ほ 5 前

クロ みに とい アナの ナも更生し という事は う闇 エ 荷担させられ が お痛。 雇 の っ 組 た た 織 ということがあっ 八 に かつてアナはブラックペ てい ン しし まぁ裏 ター しし たことが ょ う に通じてるのだけは に そ に 扱 の 企 あ わ た。 みを る。 れ 潰 幸 彼 I 5 さ Ll パ れ に の も 確

か ね

確 信 を 持 っ <u>ر</u> 二人 は 商 人に 徹 ようと必至

な ン ジャ Ι へと 步 み 寄 う た。

良 L١ 物っ て 何 ? お兄 さ

慣 れ た 感 じ で、 声 を か け る ア ナ。

_ おう、 ねえちゃ h しし き あ ね えちゃ んに

は 必 要 な L١ 物 か も な あ _

もったい つけることで、 余計 に 興味 を 引きつ

クロ エはそうでないと見切った。 け

ようとする、

商

人ならでは

の駆

け

引き。

١J

私 達 ね アンド П イドのパー ツを探 Ū て L١ る

の 持って ない ?

とてもア ンド · ロ イ ドの パ 1 ツ を 欲 U が るよ う

に !は見! え な ιį だ か ら本 当に 必 要 な 61 ح 思 った

のだろう。 駆 け 引 き では なく、 素で答 え た ょ

う

だ ۲ クロ エ は 睨 h だ。

な に ょ ĵ 目 の 前 の 男 は 商 売 の 駆 け 引 きに 長た

け るよ う に は 見 え な L١

ンドロ ぉੑ イドのパ そうな I の ツを手に入れてよ..... か。 しし ゃ 実 は ź ちょ うどア

> そ の 証 拠 に ク エ の 葉 を疑

す h なりと話 に 乗っ て き た の だ。

こ れ ボ ディ I と左 腕 だ けだ が ŕ ば らけ

た だ けでまだま だ 使 える ぜ

て の 加 え 知 識 Ţ は どうも 無い 5 アン U ιį ド 解っ П 1 て ド しし の る パ ı の は ツ に _ 裏 関 で

は 金 に な る とい うことだ け のよ うだ。

つ ていく わ ね

こ

れこれ、

これ

を 探

U

て

しし

た

の

よ。

じ

ゃ

貰

有 無 を言わさずパ ツ 奪 しし 取

I

を

ıΣ́

そ

の

ま

ま

立ち去ろうとする 姉 妹

お つ、 お L١ お しし 金 払 っ T 行 け ょ ! そ れ

は

俺

が :

そ れ L١ とも、 けど、 れ あ は得策じゃ な たが、 これ あ < ま 森で 本来 で な 自 拾 L١ の つ 持 分 と思うけどな き主 の た だ パ لح が Ι 主 探 ツ 張 L な あ す て h る L١ で L て ね。 ょ あ ? ま IJ そ 悪

短^ダす 剣 づる 振 لح IJ 向 同 男の きざま 時に、 脇 腹に押し当てていた。 ア に クロ ナ は エが セイフテ 男 の言葉 1 Ī を を 遮 外 IJ 主 張

「……ごごでそういう事を言い出すか?」

はマナー違反。男はそれを主張している。反則だ。そして余所ならまだしもごごでの窃盗∞≒裏市場で、正当な所有者など問いただす方が

「ここが何処だってかまわないわ。私達は、八

ンター ズギルドのメンバーとして依頼をこなす

だけ。文句があるなら、ギルドを通しなさい。

あなたもギルドのメンバーならね」

に屈するしかなかった。 「うの音も出ない。男は、言葉と短剣の脅迫

いう事に長けているというのも……嫌なもの「ああいう小ずるい男よりも、自分の方がごう

ね

こ食いご。そんな事を思いながら、姉と共に依頼者の下へそんな事を思いながら、姉と共に依頼者の下へあの子がいると、こういう方法も出来ないし。

いや、本当にありがとう。なんとか接続が復

帰したよ」

のアンドロイドとして復帰した。無事全てのパーツが揃い、ライオネルは一人

「まだエージングが済んでないので、本調子に

はほど遠いがね」

完了とハうことだ。 たのは大きい。なんにせよ、これで依頼は無事とはいえ、エネルギー切れの心配が無くなっ

「皆さんありがとうございました。私一人では、完了ということだ。

ほんとどうなっていたか.....」

の瞳はうるうると涙で濡れ光っていた。それを感謝と、そしてほぐれた緊張の為か、マァサ

クロエが優しくなだめる。

ただ一人、難しい顔をして唸る男がいた。「......なに、なんか不服そうだね」

などと言いつつも、明らかにアッシュは不満いや、不服ってわけじゃないんだけどさ」

を態度で示していた。

アッシュのした大役と言えば、大 猿の腹か「結局……俺は汚れ役だけか?と思うとさ」

と評しているようだ。

「なーに言ってんだか。君はね、まだまだ騎士

には早いのっ!」

パンッ、と背中を強く叩き、アナは豪快に笑

い飛ばした。

そんなアナに、アッシュは口をとがらせるだ

け。

心の中で評した。しの皮肉を込めて、アナは将来の王子様をそう白馬の王子は白いままでいればいい。ほんの少本当の汚れ役は、汚れた所を見せないもの。